

2. 調査b) 北方領土返還要求運動の地域内・地域間連携調査

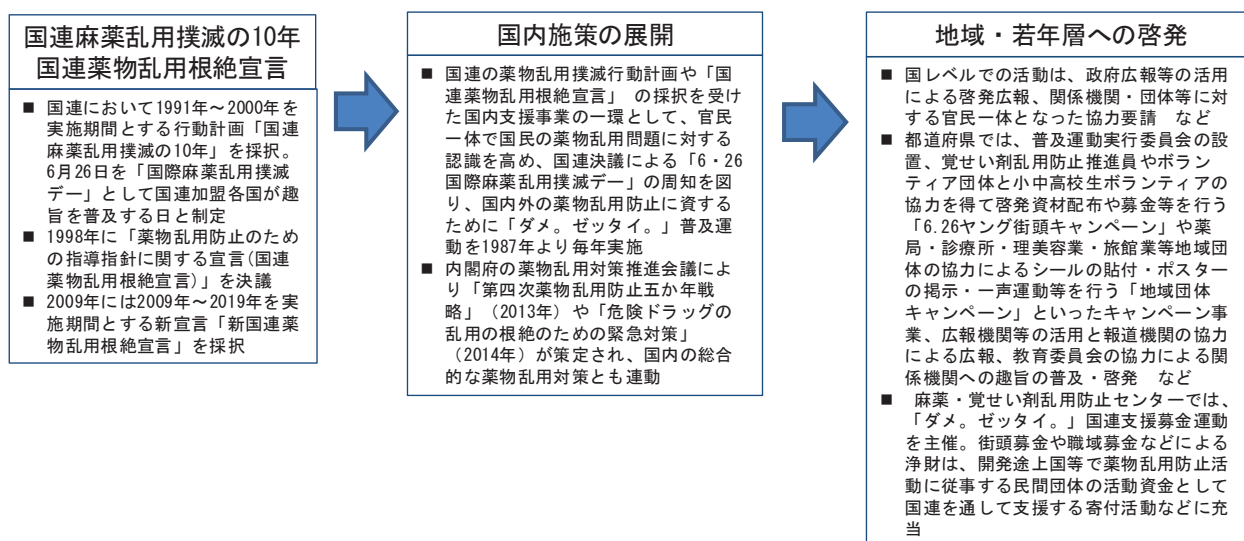
④「ダメ。ゼッタイ。」普及運動

行事名	「ダメ。ゼッタイ。」普及運動
主催する自治体および担当部署	厚生労働省、都道府県、(公財)麻薬・覚せい剤乱用防止センター
実施日時	毎年6月から7月までの1か月間
実施期間	1987年～
実施頻度	毎年1回、1か月間
参加対象者	日本在住の市民全般、特に若者層
概要/主なプログラム	広報機関による啓発宣伝、街頭キャンペーン、イベント開催等
連携先の団体等名	各地域の保健所、教育委員会、地元自治体、民間企業等
実施主体・連携先の役割分担	普及運動実行委員会が中心となり、「ヤング街頭キャンペーン」を実施。一方商店街が中心となって、地域団体キャンペーンを実施し、横展開を作り出している。
連携のモチベーション(動機づけ)	企業・団体は、募金や協賛品の協力を通して、CSRをアピールする機会となっている。



出典：(公財)麻薬・覚せい剤乱用防止センター公式HPより

活動発展の流れ



ポイント：

- 国連の麻薬・薬物乱用撲滅に向けた行動計画・宣言を支援する官民一体の全国事業としてスタート。
- 国、都道府県、保健機関、教育機関、企業・団体など多様なプレーヤーの連携により、主に若年層を対象とした薬物乱用防止の啓発・啓蒙や、薬物乱用防止活動を行う国内外の民間団体等を支援する国連支援募金活動への参加を推進している。
- 近年は、危険ドラッグ犯罪等に対処するための国内の薬物乱用防止対策との連動も図られている。

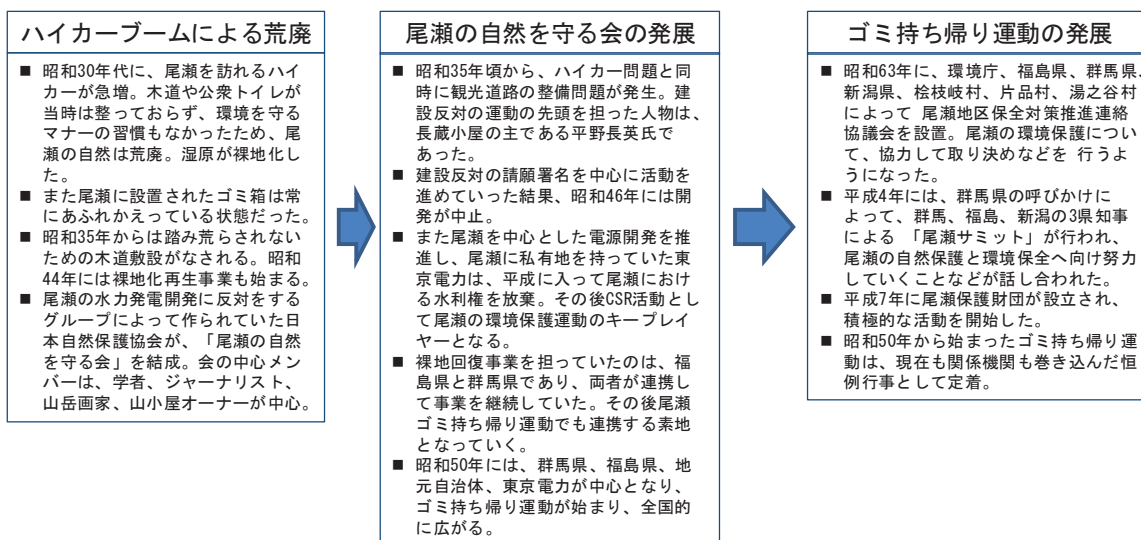
⑤尾瀬ゴミ持ち帰り運動

行事名	尾瀬ゴミ持ち帰り運動
主催する自治体および担当部署	群馬県、福島県、檜枝岐村、南会津町、（公財）尾瀬保護財団、福島県自然公園清掃協議会尾瀬支部、尾瀬檜枝岐温泉観光協会、尾瀬檜枝岐温泉民宿組合、尾瀬山小屋組合、檜枝岐村商工会、日本たばこ産業(株)、(株)東邦銀行、(株)福島銀行
実施日時	毎年6月の1か月間（環境月間と併せて開催）
実施期間	1961年～
実施頻度	毎年1か月間
参加対象者	尾瀬エリアを訪れる観光客等
概要/主なプログラム	ごみ持ち帰りを呼びかけ、持ち帰り用のゴミ袋を配布。
連携先の団体等名	JT(日本たばこ産業)、東京電力など
実施主体・連携先の役割分担	各登山口が複数の県、市町村にまたがるため、各登山口のある行政が役割分担して、ゴミ袋配布を実施。またゴミ袋と併せてJTからタバコケースを配布
連携のモチベーション（動機づけ）	東京電力、JTなど環境負荷のかかる事業を実施している企業は、尾瀬の環境保全活動に係ることで、企業ブランドの向上に繋がっていることが考えられる。



出典：群馬県公式HPより

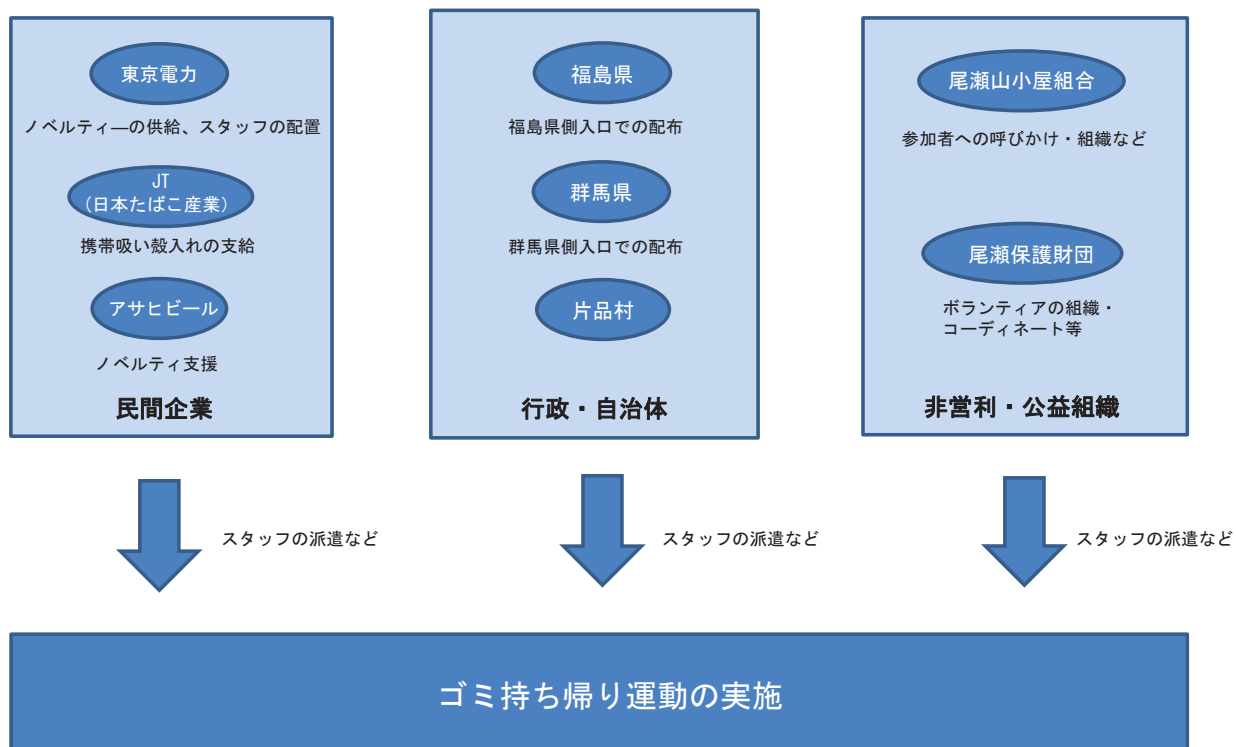
活動発展の流れ



ポイント：

- 尾瀬のゴミ持ち帰り運動は、日本のゴミ持ち帰り運動の発祥とされており、その背景にはハイカーによる環境悪化の問題と、尾瀬におけるダム開発問題など環境保護意識が醸成される機運があった。
- ゴミ持ち帰り運動は、電源開発問題や、観光道路問題に対する反対運動により、運動団体、地元行政の連携が産まれていった結果できた運動であり、かつて電源開発の推進者であった東京電力も環境保護の立場から関わり続けている。

実施スキーム



2. 調査b) 北方領土返還要求運動の地域内・地域間連携調査

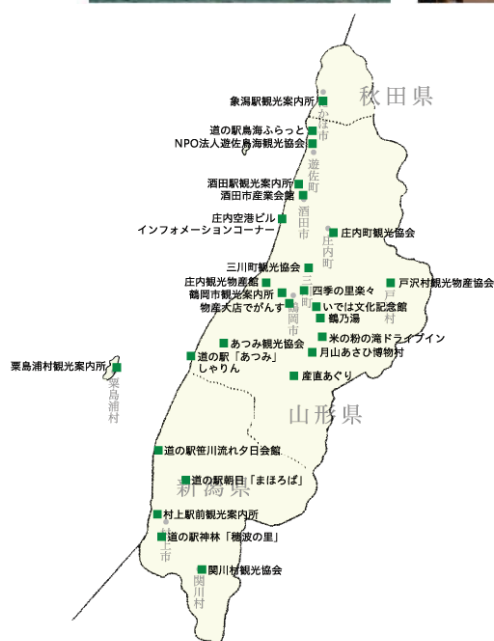
⑥ 日本海きらきら羽越観光圏

行事名	日本海きらきら羽越観光圏
主催する自治体および担当部署	秋田県にかほ市・山形県鶴岡市・酒田市・戸沢村・三川町・庄内町・遊佐町、新潟県村上市・関川村・粟島浦村
実施日時	通年
実施期間	平成21年4月1日～平成26年3月31日まで
参加対象者	羽越本線のジョイフルトレイン「きらきら羽越」の乗降客を中心とした各主要都市からの観光客
概要/主なプログラム	日本海きらきら羽越観光圏の観光資源の魅力向上と観光客の集客向上に向けて、羽越本線沿線の関係市町村が一体となって、様々な観光プログラム連携、実施を行っている。 ①都市再生整備計画、②駅及び駅前空間整備による賑わい再生の拠点化、③日本海の豊かな資源を生かしたまちづくり計画、④心と体が元気になる体験型観光の推進等
連携先の団体等名	JR東日本、各自自治体の観光協会、各温泉の旅館組合など
実施主体・連携先の役割分担	各市町村が主体となり、圏内の計画事業を主体的に実施。
連携のモチベーション（動機づけ）	羽越本線の観光列車を軸に、沿線地域が一体となって観光施策を作り出すことで、各市町村独自では弱かった観光効果がより大きくなっていくと考えられる。

[iro] 彩木に出会い、きらめきの旅。

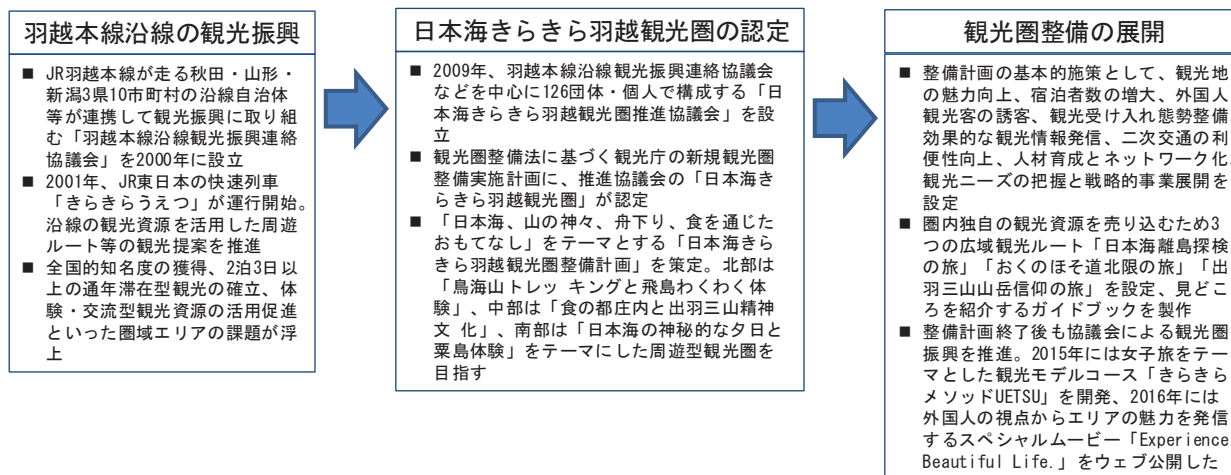
秋田県、山形県、新潟県3県10市町村に渡る日本海きらきら羽越観光圏は、十人十色ならぬ十市町村十色。多彩な顔を持つエリア“羽越”できらめきの旅を楽しみませんか。

[Enter]



出典：日本海きらきら羽越観光圏公式 HP より

活動発展の流れ



ポイント：

- 広域連携による観光振興を目的として、自治体、運輸事業者、旅行・観光関連団体等の協働体制が観光圏整備以前より構築されていた。
- 観光圏推進協議会の設立で連携を強化、国支援事業における滞在型観光圏整備の認定を契機に、国内外からの誘客拡大などを目指す広域観光振興事業が進展した。
- 推進協議会による観光圏の振興施策は整備計画の終了後も継続。

⑦南アルプスユネスコエコパーク構想

行事名	南アルプスユネスコエコパーク構想
主催する自治体および担当部署	韮崎市、南アルプス市、北杜市、早川町、飯田市、伊那市、富士見町、大鹿村、静岡市、川根本町の南アルプスに関係する10市町
実施期間	2007年～2015年
概要/主なプログラム	ユネスコエコパークの調査研究、ユネスコエコパーク登録に向けた事業、観光施策の策定など
連携先の団体等名	地域・民間のエコパーク推進団体、自然環境保全関係団体、学術研究機関など
実施主体・連携先の役割分担	連絡会議の下、各県が協議会を主催、各市町村ごとに事業を主体的に実施する。
連携のモチベーション（動機づけ）	ユネスコエコパークの枠組みに参加することで、各市町村の観光資源発掘に繋がる点がモチベーションとなる。



標高約1000mの深い深谷にある
下栗の里（飯田市）



200年以上続く大鹿農村歌舞伎
（大鹿村）

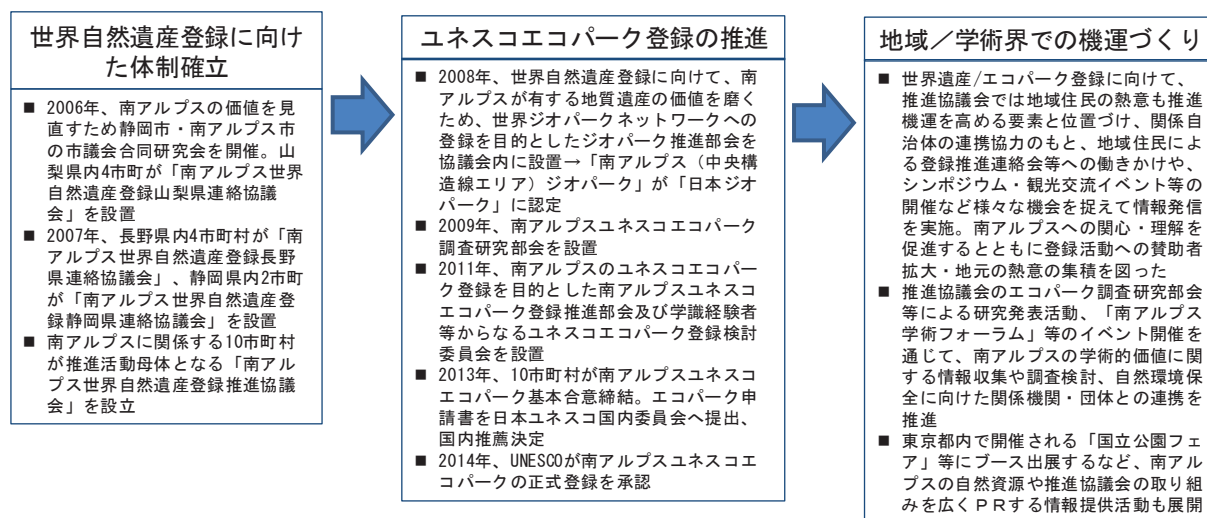


豊かな水資源を利用した稲作
（北杜市）



出典：南アルプスユネスコエコパーク公式 HP より

活動発展の流れ



ポイント：

- 南アルプスの世界自然遺産登録を念頭に置いたエコパーク登録推進に向けて、3県に跨る関係自治体が連携して主導的に活動。
- 世界遺産/エコパーク登録への地元の機運を高めるために、地域住民・団体や学術研究機関などを巻き込んだ賛同者の拡がりを図るための周知・啓蒙活動を展開した。